

TeX を含めた Markdown のテスト

Shuichi Ohtsu

概 要

これは Pandoc による PDF 出力用のテストデータです。TeX も含めています。

目 次

Markdown の解説	2
特殊文字	2
表	2
数式	2
リンク	3
脚注	3
図	3
ソース	3
リスト	4
引用	4
参照	5
罫線	5
参考文献	5
Reference	5

Markdown の解説

特殊文字

入力

‘`TEX` は スタンフォード大学の Donald E Knuth 教授が開発しました。

`ABCDEFgℋ`

‘

出力

T_EX は スタンフォード大学の Donald E Knuth 教授が開発しました。

ABCDEF_gℋ

表

入力

```
\begin{tabular}{|l|l|}\hline age & count \\\hline 18-25 & 15 \\\hline 26-35 & 33 \\\hline 36-45 & 22 \\\hline \end{tabular}
```

出力

age	count
18-25	15
26-35	33
36-45	22

数式

入力

```
\newcommand{\tuple}[1]{\langle #1 \rangle}
```

`$\tuple{a, b, c}$`

H~2~0 は液体です。 2^10^は 1024 です。

```
\begin{equation}
  y = ax^2 + bx + c
\end{equation}
```

```
$\displaystyle y=\frac{1+x}{1-x}$
```

出力

$\langle a, b, c \rangle$

H₂O は液体です。 2¹⁰ は 1024 です。

$$y = ax^2 + bx + c \tag{1}$$

$$y = \frac{1+x}{1-x}$$

リンク

<http://google.com> sample@google.com

これはインラインリンクです。

脚注

これは脚注の参照です¹。

図

ソース

```
#include <stdio.h>
```

```
int main(int argc, char **argv)
```

¹これは脚注の本文です。

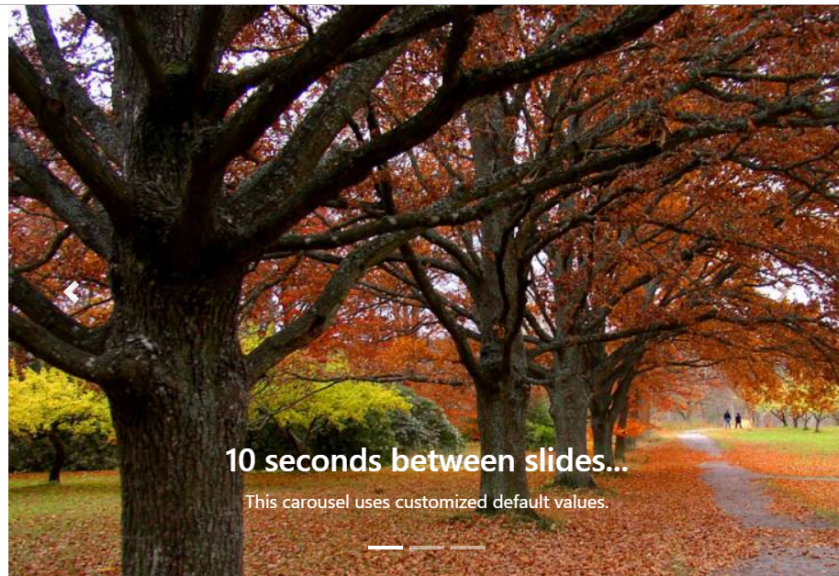


Figure 1: これはキャプションです

```
{  
    printf("%s\n", "Hello, World");  
    return 0;  
}
```

リスト

- list 1
 - list 1 - 1
 - * list 1 - 1 - 1
 - * list 1 - 1 - 2
 - list 1 - 2
 - list 1 - 3
- list 2
- list 3

引用

このテキストは、HTML の `blockquote` 要素に囲まれます。
`blockquote` 要素は reflowable です。テキストを好きなように

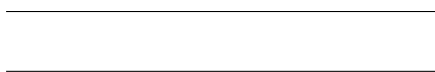
改行することができます。改行したとしても、変換後はひとつの
blockquote 要素として扱われます。

[Firefox] [Firefox]: http://getfirefox.jp/b/120x90_1_white “ファイヤーフォックス”

参照

図 fig. 1 で表示されています。

罫線



参考文献

Pandoc の文法については、(MacFarlane 2018) や (“Pandoc ユーザーズガイド日本語版” 2014) を参照してください。

T_EX については、(奥村 晴彦 2017) などを参照してください。

この内容については、Reference を参照してください (Zipf 1946)(“Windows Subsystem for Linux をインストールしてみよう!,” n.d.)(MacFarlane 2018)。

Reference

MacFarlane, John. 2018. “Pandoc User’s Guide.” <https://pandoc.org/MANUAL.html>.

“Pandoc ユーザーズガイド 日本語版.” 2014. <http://sky-y.github.io/site-pandoc-jp/users-guide/>.

“Windows Subsystem for Linux をインストールしてみよう!” n.d. <https://qiita.com/Arunekeo/items/c79810b0b015bebf30bb>.

Zipf, George Kingsley. 1946. “The P1 P2/d Hypothesis: On the Intercity Movement of Persons.” *American Sociological Review*, 677–86.

奥村 晴彦, 黒木 裕介. 2017. [改訂第 7 版]*LaTeX 2_ε 美文書作成入門*. 技術評論社. <http://book.gihyo.co.jp/bibunsho/>.